

1. 大学訪問について

研修の二日目には北京大学の元培書院、四日目には清華大学の日新書院と新雅書院を訪問しました。時には一緒に歩きながら時には食事を囲んで、両大学の学生と直接交流できたことが、特に有意義な経験でした。

日本でも高考の激しい競争は報道されており、北京大学や清華大学にはそれを勝ち抜いた学生が集まっているため、訪問前には、勉強一筋で競争心みなぎるような学生像を思い浮かべていました。しかし実際には、授業や課題に取り組みながら音楽やスポーツも楽しむ、親しみやすい学生の姿がありました。彼らは短い時間の中でも私たちを歓迎し、関心を持って接してくれました。また、「専門分野を絞った後も、幅広い学問への関心を維持するために」「自身のキャリアや生活と社会全体との関わり」「教育に表れる地方と都市との格差」といった、共有して進められる議論を見つけられたことは最も印象的でした。

交流は、英語、中国語、日本語の三つの言語を使いながら進みました。相手が日本語で話してくれると嬉しく、勉強途中の中国語がどの程度会話の中で使えるのか試したいという気持ちもありました。英語を補うように使いながら、中国語と日本語でなんとか表現し、三つの言語が混ざり合う会話は、言語を使う楽しさを感じさせてくれました。最初から英語を使わないこの会話は、日中互いに理解し合おうとする EAA ならではの感じ、研修後は中国語で色々なことを話せるようになりたいと、語学学習への気持ちを新たにしました。

今回の研修では、中国の大学教育の一貫である学生寮も見学させていただきました。私は日本でレジデンシャルカレッジに居住していた経験があったため、共通点や相違点を発見する楽しさがありました。寮で議論やコミュニティの活動をするを通し、相手と良い時間を過ごし良い関係を築くために必要な技術を身につけることができるということは、共通していると感じました。

一方、日本でのレジデンシャルカレッジは学校や仕事とも家族や友人とも異なる第三の場であったのに対し、中国では大学内で学業と衣食住が完結する点が異なっていました。大学が一つの街のようになっている中国の大学では、高いレベルでの競争から意識を離すことができない苦しさもありながら、学生に対して開かれた自由な空間が成立していました。多くの大学や企業が密集する東京と、各大学が広大な敷地を持つ北京の地理的な条件の違いからシステムの違いが生まれ、学生の生活のあり方も大きく異なっていることも、興味深く感じました。

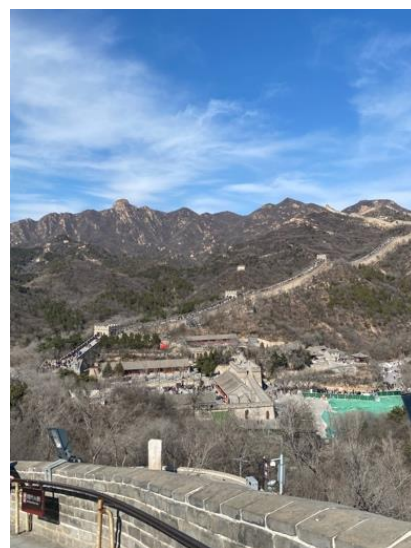


2. その他の見学について

研修の三日目には頤和園と万里の長城の八達嶺、五日目には円明園を見学することができました。高校の世界史で学習したこれらの場所に実際に立てたことは、とても嬉しい体験でした。歴史上の人物とのつながり（清最盛期の乾隆帝が立った場所に自分が立っているなど）を契機に、過去との時間的なつながりと中国という異国の土地との空間的なつながりの中に自分の存在を見出すことができる、良い感覚がありました。

これらの見学から感じた中国の“大きさ”が最も印象に残っています。人力で湖を掘ることで南方の景色を北京に再現した頤和園、登るのがやっとな急斜面が連続する山々に馬で石を運び込んで建てられた万里の長城。広大な土地に加え大勢の人々の労働によって、作られた景色を多く目にしました。飛行機からは、強い光を放つ都市の街並みがどこまでも続くことに驚きました。

圧倒されるような中国の大きさは、広大な土地と、そこを埋め尽くす人口の多さが、合わさって感じられるものだと、滞在中に考えました。渡航前から知識として知っていた地図上の広さと統計上の人口の多さが結びつき、圧倒されるような大きさという一つの感覚として持てるようになり、実際の空間に身を置いて自分の目線で見ることの意義を改めて感じました。



3. 終わりに

私は、この北京研修から EAA への参加を始めることになりますが、EAA への参加の起点としてこの研修に参加できたことは幸運だったと思います。初めて中国を訪れてその空間を感じるとともに、三つの言語を使った議論を楽しみながら体験することができ、中国の大学生に対する同じ大学生としての親しみのような気持ちを持ち帰ることができました。先生方や先輩方の EAA への取り組み方を、その様子から教えていただくこともできたと思います。一方で、卒業時に EAA を修了できたとしたら自分がどんな学びや成長を得ているのかまだ想像できず、楽しみにしながら、今後も取り組んでいきたいと思っています。